

原爆で召された広島市長

不動の信仰者 栗屋仙吉物語



鉄道官吏の二男として仙台に生まれる。熱心なクリスチャンであった母の影響を受け、「よきクリスチャンとして生涯を全うしたい」との志を立てるようになった。

第一高等学校を経て、東京帝国大学法学部を卒業。官僚として内務省に入り、広島県属・農務商工課長・広島県警視保安課長・北海道庁理事官・教育兵事課長・補視学官・任事務官、地方課長兼統計課長を歴任し、若干30代にして高知県警察部長となる。この時、漁業史に残る「機船底引網漁業全廃闘争」が起こり、大騒動となるが、仙吉はその指導者たちと話し合いを重ねて収束させた。この手腕が注目を集め、愛知県警察部長、大阪府警察部長に抜擢される。

その後「ゴースト事件」が発生（昭和8年6月）。大阪市北区天神橋の交差点を第4師団の陸軍1等兵が信号を無視して横断したこと、それを見た巡査が署に連行したことがきっかけとなって軍部と、警察を管轄する内務省との全面対決となったが、仙吉は寺内寿一師団長相手に一歩も引かなかった。ついに天皇や陸軍大臣までが関わる事態となったが、最後は両者が非を認め合って一応の和解に達し、仙吉の評価はいやがうえにも高まったものの、これ以降、皮肉にも陸軍の暴走に拍車がかかることになる。

その後大分県知事、農林省経済部長、水産局長、馬政局長官を歴任して、一旦退官したものの、1943年、大蔵大臣賀屋興宣の懇請により広島市長に就任。日夜広島市民のために粉骨砕身の努力をしたが、1945年8月6日、原爆により即死。同じく被爆した妻の幸代は翌月死亡し、母を看病した次女康子も二次被爆の影響でこの世を去った。

今回は、鮮烈な最期を遂げることになったものの、戦時下にあって一筋に聖書に従い通した栗屋仙吉の生涯から学びます。

記

1. 日時:2016年7月8日(金) 10:30 AM より
2. 場所:ゴスペルホール(電話 026-295-6705)
3. 講師:尾崎富雄(ゴスペルホール代表)

入場無料。どなたでも参加できます。